

言語学研究

Linguistic Research

第7号

1988

言語学研究

Linguistic Research

第7号

1988

目 次

論文

Idioms in Generative Syntax

Hiromu SAKAI (酒井 弘) 1

Rules and their Actualizations in Second Language Learning

David A. SELL 21

フィンランド語における節の統語構造について —移動現象を中心に—

岸田 泰浩 37

現代ビルマ語における動詞配列の類型について

澤田 英夫 73

Right Node Raising

田路 敏彦 111

京都方言における外来語のアクセントについて

中井 幸比古 130

「能力表現」の語用論 —日本語とアラビア語の対照研究—

西尾 哲夫 153

反復を含む構文の性質について —日本語は文脈自由文法で記述可能か?—

服部 匡 185

古代ロシア語の関係詞ИЖЕとКОТОРЫИについて

—16世紀の文献を中心とした関係詞の変遷—

藤代 節 201

京都大学言語学懇話会報告 1988年度 231

(岸田論文)

p. 39 -1. 2	次の(7b')	→	上の(7b')
p. 40 1. 1	(7')	→	(7b')
p. 40 1. 1	(7'')	→	(7b'')
p. 44 -1. 6	Minkä, rikoksen	→	[Minkä rikoksen],
p. 48 -1. 1	$\beta = t_1$	→	$\beta = t_1$
p. 51 1. 24	mihinkään	→	mihinkään

(中井論文)

p. 130 -1. 7	<千>1919f	→	<千>1910f
p. 134 -1. 5	2 アにばらつきが	→	2. アにばらつきが
p. 135 1. 9	コ4とテ4語 23	→	コ4とテ4 23語
p. 135 1.17	いくつか述べる	→	いくつか述べる。
p. 137 -1. 5	発話する場合の音調	→	発話するのを聞いた場合の音調
p. 138 1. 4	p r	→	p e r
p. 138 1. 9	「長母音	→	「長母音
p. 138 1.13	2 モーラ 2 音節	→	2 モーラ 2 音節以上
p. 147 1. 7	それもコ1)。	→	それもコ1)」。
p. 148 1.24	サ0ベル	→	サーベル
p. 149 1.10	トンエル	→	トンネル
p. 150 -1. 3	オリンブック	→	オリンピック
p. 151 1. 3	ダオッチボール	→	ドッチボール
p. 151 1. 3	ンアップザック	→	ナップザック

(服部論文)

p. 199 1.14	Burton	→	Barton
-------------	--------	---	--------

(藤代論文)

p. 203 1. 8	不定代名詞詞的	→	不定代名詞的
p. 205 1.16	(Лихачев(ред.))	→	(Лихачев(ред.))1980)
p. 206 -1.16	成立	→	成立年代
p. 207 1. 3	により	→	により行われ
p. 213 -1. 6	КОТОРУИ	→	КОТОРЫИ
p. 214 -1.15	の専ら	→	専ら
p. 220 表中	無先行詞	→	無先行詞 § 3.2

言語学研究 第7号

1988年12月1日発行

編集委員：壇辻正剛，檜崎勝則，家本太郎，上山あゆみ

発行者：京都大学言語学研究会

〒606 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部言語学研究室内

Edited by Masatake DANTSUJI, Katsunori NARAZAKI,
Taro IEMOTO and Ayumi UEYAMA

Published by Kyoto University Linguistics Circle
c/o Department of Linguistics,
Faculty of Letters, Kyoto University,
Yoshida-Hommachi, Sakyo-ku, Kyoto,
606 Japan

印刷所：昭和堂印刷所

〒606 京都市左京区百万遍交差点上ル東側
